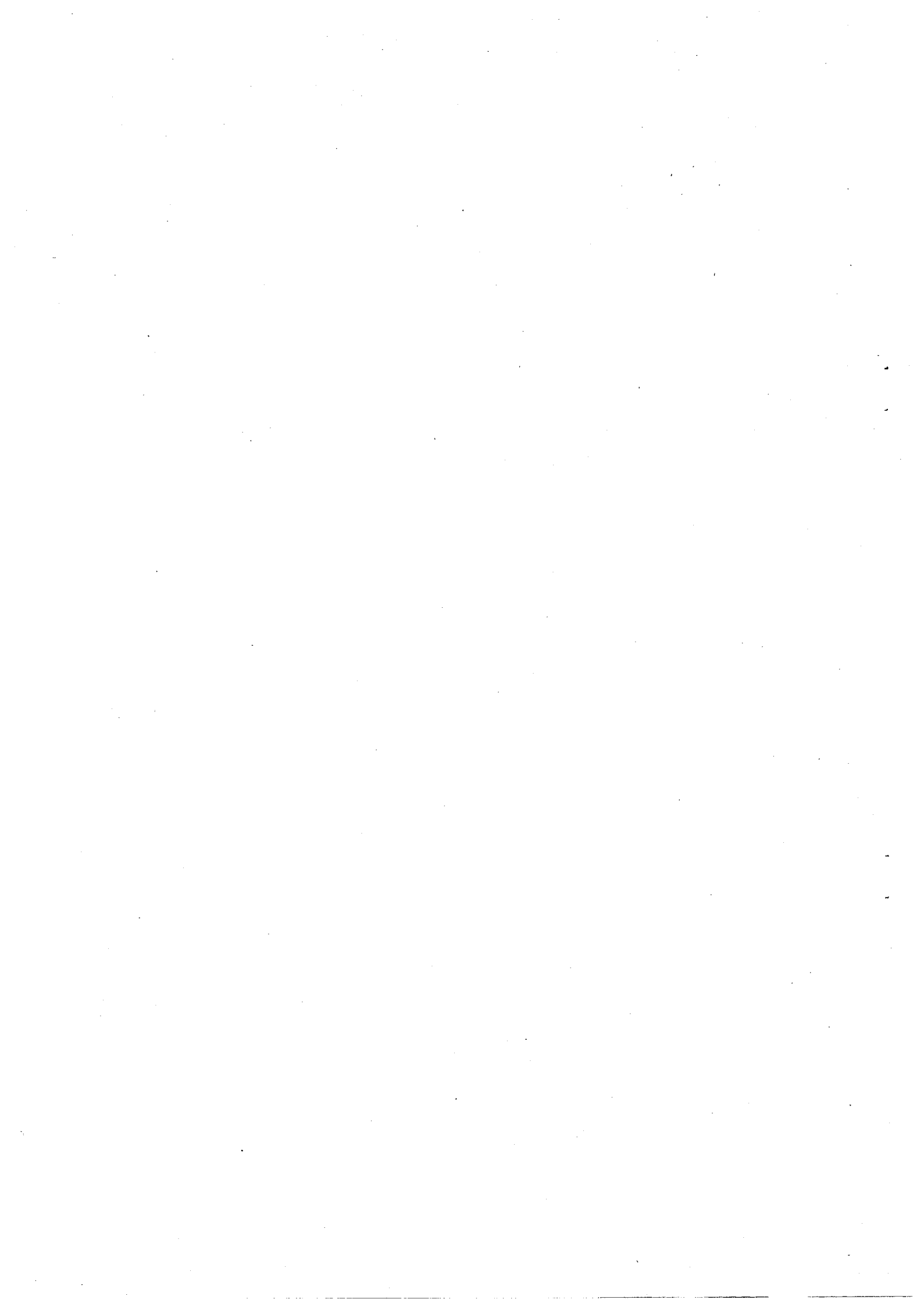




平成 29 年度 事業分析表  
(平成 28 年度事業実施分)

【足立区子ども・子育て支援事業計画】





## 施策1-1

子どもの心身の健全な発達の支援



平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

子ども施設運営課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-1	子どもの心身の健全な発達の支援				
事業名	1-1-①	食育の推進事業				
事業内容	「あだちベジタベライフ～そうだ、野菜を食べよう～」をキャッチフレーズに、野菜摂取の大切さを伝えるために、保育園等でのおいしい給食「野菜の日」などを通じて、正しい食習慣づくりを推進します。望ましい食習慣や生活習慣を身につけ、子どもの健康格差の縮小に取り組みます。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	14,597	520	0	0	
	事業費	144	520			
	人件費	14,453	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.1			
		計	864	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	3.8			
		計	13,589	0	0	0
財源内訳	国庫支出金					
	都支出金					
	その他〔 〕					
	一般財源	14,597				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
「ひと口目は野菜から（ベジファースト）」事業の保育施設での実施割合	(対象) 区立保育園・こども園、私立保育園、認証保育所の3～5歳児 ※私立幼稚園はH30年度から実施予定	区立園 100% 私立園 30% 認証 —	区立園 100%					区立園 100% 私立園 100% 認証 100%	区立園 5 私立園 —
	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：実施園数 B：対象施設の総数								
「野菜栽培と収穫野菜の調理体験」事業の保育施設での実施割合	(対象) 区立保育園・こども園、私立保育園、認証保育所の3～5歳児	区立園 100% 私立園 — 認証 —	小松菜栽培 区立園 100% 私立園 56%					区立園 100% 私立園 100% 認証 100%	4
	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：実施園数 B：対象施設の総数		調理体験 区立園 100% 私立園 84%						

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	28年度から区立園以外の園への食育の推進を積極的に働きかけている。区立園には、小松菜の種と土、私立・公設民営園には種のみを配布したところ、栽培実施は区立園100%、私立・公設民営園は56%であった。私立・公設民営園は、84%の園が調理体験を実施しているが、全く実施していない園もあることが調査によりわかった。
事業の進捗状況 (現状分析)	「ひと口目は野菜から（ベジファースト）」に取り組む園が増えるよう働きかけている。また、29年度は私立・公設民営・認証（5歳児在園）の園にも小松菜の種及び土を配布している。28年度より実施園が増えると推測される。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	望ましい食習慣や生活習慣の形成にとって、乳幼児期は非常に大きな役割を果たす時期である。各取り組みについて、区立園は100%実施であるが、私立園での実施割合を高めることが課題である。平成29年度は、小松菜の種及び土の配付を全保育施設（5歳児在籍園）に拡大したとのことであるので、今後の取り組みの広がりを注視したい。
------	-------	--

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-1	子どもの心身の健全な発達の支援				
事業名	1-1-②	保健所での健康教育・食育の推進				
事業内容	乳幼児健診や育児学級、健やか親子相談事業など、様々な機会をとらえて健康教室を実施し、糖尿病予防と糖尿病の重症化を未然に防ぐため、早期から1日3食、野菜を食べるなど望ましい食習慣を身につけることを保護者へ啓発していきます。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	79,731	42,737	0	0	
	事業費	37,419	42,737			
	人件費	42,312	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	4.28			
	非常勤	計	36,983	0	0	0
		平均給与	3,576			
	財源内訳	人数	1.49			
		計	5,328	0	0	0
国庫支出金	42					
都支出金	42					
その他〔 〕	0					
一般財源	79,647					

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
乳児（3～4か月児）健康診査、育児学級及び健やか親子相談事業における健康教室の参加率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：各健康教室への参加人数 B：0歳児人口×3 <sup>※</sup> ※乳幼児健診、育児学級、健やか親子相談事業の3つの事業での参加率であるため、3倍にしています。	89.9%	91.3%				95%	5	
1日3食、野菜（おかず・汁物など）を食べる幼児の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：1日3食、野菜（おかず・汁物など）を食べると回答した件数 B：アンケートの回収件数	26.6%	29.5%				45%	4	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	健康教室の参加率は、平成27年度より増加している。健康教室は、望ましい生活習慣に関する知識を提供する大切な機会であるため、今後も参加率の向上を図っていく。1日3食野菜を食べる幼児の割合は、平成27年度より増加している。望ましい生活習慣は子どもの心身の健全な発達につながるため、今後も1日3食野菜を食べることの大切さを分かりやすく伝えていく。
事業の進捗状況 (現状分析)	健康教室の参加率及び1日3食野菜を食べる幼児の割合ともに指標は伸びている。健康教室の参加率が1日3食野菜を食べる幼児の割合に連動していると思われるため、健康教室の参加率の向上を重点的に図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	保護者への啓発のためには、健康教室等の場を活用することは効果的である。2つの指標ともに伸びており、健康教室のほか様々な機会を捉えて啓発活動を継続していくことで、望ましい食習慣を定着させ、ひいては、子どもたちの健やかに成長につなげていきたい。
------	-------	--

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

子ども政策課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-1	子どもの心身の健全な発達の支援				
事業名	1-1-③	早寝・早起き・朝ごはんの推進				
事業内容	早寝・早起き・朝ごはんが身につくよう、啓発を行います。 保育園等での早寝・早起き・朝ごはんカレンダーによる取り組み、パンフレットやポスターなどによる啓発活動を行っています。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	7,022	2,344	0	0	
	事業費	2,344	2,344			
	人件費	4,678	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.5			
		計	4,321	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.1			
		計	358	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金				
都支出金						
その他〔 〕						
一般財源		7,022				

■ 指標


指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
早寝・早起き・朝ごはんカレンダーの取り組み園数の割合	(対象) 区立保育園・こども園、私立保育園、認証保育所、私立幼稚園・こども園の4、5歳児  (算出式) $\frac{A}{B}$  A：取り組み園数 B：（区立保育園・こども園+私立保育園+認証保育所*+私立幼稚園・こども園）の総数  ※4、5歳児の在籍圏に限る	81.7%	80.8%				93.7%	1	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■ 事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	保育園、幼稚園等に依頼し、4・5歳児に対して配布しているが、各家庭に配るだけでなく、園での指導が必要になるため、公立園での取り組みは進んでいるが、私立園での取り組みが進んでいない。目標達成のためには、人的余裕のない私立園でも取り組みやすい内容に変えていく必要がある。
事業の進捗状況 (現状分析)	新設園の増により、実績値は減となっているが、取り組み園数は増加している（143園→147園）。早寝早起きカレンダーの内容に関しては、食育や歯磨きの要素も取り入れながら、工夫を行っている。保育者へのアンケートを行い、現場の意見をカレンダー作りに活かしている。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	 現場の意見を取り入れながら、子どもたちが楽しんで取り組めるようなカレンダー作りをしている点は、評価できる。更なる啓発を図るためにも、私立園での取り組みの拡大に取り組んでいただきたい。
------	---

平成29年度 事業分析表 (平成28年度事業実施分)

作成担当課

子ども政策課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-1	子どもの心身の健全な発達の支援				
事業名	1-1-④	あだちっ子歯科健診				
事業内容	むし歯が増えやすい4歳(年少児)から6歳(年長児)を対象に、①区統一基準の歯科健診、②丁寧な受診勧奨、③結果集計・分析・フィードバックをセットにした「あだちっ子歯科健診」を実施。未就学児のむし歯予防および早期の治療、ひいては子どもの貧困対策にも繋がるよう取り組みを進めています。					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	25,205	15,334	0	0	
	事業費	事業費	15,527	15,334		
		人件費	9,678	0	0	0
	常勤	平均給与	-8,641			
		人数	1.12			
		計	9,678	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数				
		計	0	0	0	0
財源内訳	国庫支出金					
	都支出金					
	その他〔 〕					
	一般財源	25,205				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
教育・保育施設における歯科健診の受診率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A: 教育・保育施設における受診者数 B: 教育・保育施設の在籍者数	98.8%	99.0%				100%	4	
未通園児の歯科健診の受診率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A: 未通園児の受診者数 B: 未通園児の数	8.6%	9.4%				12.6%	5	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	年少クラス以上がある区内全ての保育園、幼稚園、認定こども園、認証保育所に「あだちっ子歯科健診」参加を呼び掛け、174施設(97.2%)の施設で実施した。また、区内の保育園、幼稚園等に通っていない子どもに対し、個別に受診案内を送付した。施設内における歯科健診の受診者数は15,717人(受診率99%)、未通園児等(区内の教育・保育施設に通っていない子ども、未通園児+区外通園児)は112人(受診率7.7%)、合計で15,829人(受診率91.3%)であった。
事業の進捗状況 (現状分析)	平成28年度は、教育・保育施設での歯科健診実施率は向上した。一方で、未通園児等は7.7%の受診率と止まっているので、今後は未通園児等の参加率・受診率向上に向けて取り組んでいく。また、歯科健診後に治療が必要な子どもの受診報告書の提出率が前年度より5.9ポイント低下(H27.61.7%→H28.55.8%)したため、低下した施設へ再度受診勧奨への協力を依頼するとともに、実施結果よりフォローが必要な子どもや家庭には、庁内各所管や関係機関が連携して対応する仕組みを検討し、試行していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	教育・保育施設における受診率が向上している点は、評価できる。今後は、受診率の向上とともに、多数むし歯がある場合のフォローの仕組みを検討していく必要がある。また、未通園児については、受診率向上に向けての取り組みを検討するとともに、未受診者へのフォロー体制を確立させていただきたい。
------	-------	---



平成29年度 事業分析表 (平成28年度事業実施分)

作成担当課

中央図書館

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-1	子どもの心身の健全な発達の支援				
事業名	1-1-⑤	図書館での読み語り				
事業内容	絵本は、子どもの豊かな感性や人間性を育むばかりでなく、学ぶ意欲や集中力、知的好奇心などの基礎的な力を培うといわれています。また、「読み語り」による子どもとのコミュニケーションは、愛されているという安心感と信頼関係を築き、親子の絆を深める第一歩です。区立図書館（中央図書館と地域館14館）では、絵本や物語の楽しさを味わい親しんでもらえるように、乳幼児から小学生を対象とした「おはなし会」を開催しています。					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	52,613	8,242	0	0	
	事業費	8,212	8,242			
	人件費	44,401	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	1			
		計	8,641	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	10			
		計	35,760	0	0	0
財源	国庫支出金	0	0			
内訳	都支出金	0	0			
内訳	その他〔 〕	0	0			
内訳	一般財源	52,613				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
【変更前】 おはなし会(映画会を含む)の1回あたりの平均参加者数	(算出式) $\frac{A}{B}$ A: おはなし会(映画会を含む)の参加者数 B: おはなし会(映画会を含む)の実施回数	19.2人						25人	
【変更後】 おはなし会(学校に出張して実施するおはなし会などを含む)の1回あたりの平均参加者数	(算出式) $\frac{A}{B}$ A: おはなし会(学校に出張して実施するおはなし会などを含む)の参加者数 B: おはなし会(学校に出張して実施するおはなし会などを含む)の実施回数	28.5人	28.9人					30人	5

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	乳幼児から小学生対象の読み語り(おはなし会)は中央図書館・地域館14館以外でも、学校に出張するなど他にも実施しており、今回全ての実績を積み上げた。また映画会については主目的が映画上映であるため、今回から除外した。
事業の進捗状況 (現状分析)	今回、適正な指標にしたため、単純な比較は出来ないが、今後とも乳幼児から小学生を対象とした読み語り(おはなし会)を区立図書館を中心に積極的に実施、展開していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	読み語り(おはなし会)は区立図書館以外でも実施しており、また、映画会は主目的が映画上映であるとの2つの理由から、指標を変更するという点に関しては、よりおはなし会の実態を把握するうえで妥当である。様々な機会を捉えておはなし会を実施することで、読み語りの更なる普及に努めていただきたい。
------	-------	---

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

中央図書館

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-1	子どもの心身の健全な発達の支援				
事業名	1-1-⑥	あだちはじめてえほん				
事業内容	将来的に子どもの社会性と学力向上に貢献していくため、乳幼児健診の際に絵本を配付し、読み語りを実演するなど、親子がふれあうことの大切さと絵本を読む楽しさを伝えるとともに、読み語り活動の普及を図っています。 3～4か月児健診時は、絵本を配付するとともに、読み語りボランティアが絵本の読み語りを実演し、幼児期に絵本に親しむ機会の充実を図っています。 また、1歳6か月児健診時は、区内図書館と子育てサロンを絵本の引き換え場所とすることで、本に触れ合える環境が身近にあることをお知らせしています。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	86,115	10,887	0	0	
	事業費	人件費	15,791	10,887		
		平均給与	70,324	0	0	0
	常勤	人数	8,641			
		計	4	0	0	0
	非常勤	平均給与	34,564	0	0	0
		人数	3,576			
	計	10	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	0	0		
都支出金		0	0			
その他〔 〕		0	0			
一般財源		86,115				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値				目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30		
3～4か月児健診時の絵本配付冊数	3～4か月児健診時に絵本を配付した冊数 ※（ ）は配付率 ⇒3～4か月児健診の受診者に対して絵本を配付した割合	5,773冊 (99%)	5,215冊 (99%)				5,600冊 (100%)	5
1歳6か月児健診時の絵本引き換え冊数	1歳6か月児健診受診者が絵本を引き換えた冊数 ※（ ）は引き換え率 ⇒1歳6か月児健診の受診者のうち、健診の際に絵本の引き換え券を受け取り、別途区内図書館などの引き換え場所で絵本を引き換えた方の割合	3,127冊 (57%)	3,760冊 (66%)				4,400冊 (85%)	5

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	3～4ヶ月児については絵本の配付率は平成27、28年度ともに99%で、ほぼ全員に配付した。また1歳6ヶ月児健診受診者の保護者には、後日図書館等に足を運んでもらうことを目的に引換券を渡し、絵本と引き換えている。特に1歳6ヶ月児については、引き換え冊数が順調に伸びており、事業周知されてきたと考える。
事業の進捗状況 (現状分析)	本事業は平成27年度から行っており、3～4ヶ月児健診時、1歳6ヶ月健診時に本を配布しているが、併せて、3歳児健診時も含めそれぞれアンケートを実施している。27年度の、3～4ヶ月児健診時と28年度1歳6ヶ月健診時のアンケートを比較することで、保護者が絵本を読み語りしたり、区内各図書館に足を運ぶ割合を追跡して効果測定した。各項目とも割合は上がっており、今後も子どもの読書の習慣化に繋げていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	本指標は、子どもの数と健診の受診率によって変動するものであるため、冊数に加え、それぞれ率を加えることとした。1歳6か月児の数値の増は、事業周知の効果が表れているものと推測され、評価できる。また、追跡のアンケート調査を行い、事業効果を検証していることも評価できる。
------	-------	---

## 施策1-2

### 就学前からの学びの基礎づくり



平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

就学前教育推進課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む					
施策	1-2	就学前からの学びの基礎づくり					
事業名	1-2-①	保育者の資質能力向上					
事業内容	保育者の資質能力向上を図るため、幼児教育関係者が学ぶ機会を提供します						
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31		
	総事業費	8,560	2,871	0	0		
	総事業費内訳	事業費	1,647	2,871			
		人件費	6,913	0	0	0	
		常勤	平均給与	8,641			
			人数	0.8			
		非常勤	平均給与	3,576	0	0	0
			人数	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	1,096				
		都支出金					
その他〔 〕							
	一般財源	7,464					

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値				目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30		
研修会へ参加した園の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：研修会への参加園数 B：(区立保育園・こども園+私立保育園+認証保育所+小規模保育+私立幼稚園)の総数	64%	65%				70%	4

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	保育者等の資質能力向上を図る研修の充実に努めることは、就学前施設において質の高い教育・保育を提供するために必要不可欠である。
事業の進捗状況 (現状分析)	基準値に対して、H28実績値は微増しているが、各種研修における施設の種別ごとの内訳を見ると、区立園が平均90%超に対して、民間保育所は20%台、幼稚園・こども園は1桁台である。指標の定義は研修会への参加が一回以上であるが、各施設の多くの職員が複数の研修会に参加されるよう受講しやすい時間帯や曜日を検討するとともに、研修の趣旨を改めて理解して受講していただくよう、あらゆる機会・手段を通じて働きかける。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	実績値は増とはなかったが、今後、目標値を達成するためには、区立園以外の参加拡大が不可欠である。研修参加に関するアンケート結果を分析し、各施設ごとに適切かつ確かな働きかけを通じて、参加園数の増へとつなげ、教育・保育の質の向上に努めていただきたい。
------	-------	--

## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

就学前教育推進課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-2	就学前からの学びの基礎づくり				
事業名	1-2-②	幼保小連携活動				
事業内容	「あだち5歳児プログラム」の実践により、園と家庭が連携した形での基本的な生活習慣を身につける取り組みを推進するとともに、幼保小連携による幼児と児童の交流活動、教員と保育者の交流研修等により、相互が理解を深め、教育・保育に活かすことで、子どもの学びの構えを育みます。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	864	224	0	0	
	事業費	0	224			
	人件費	864	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.1			
		計	864	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
財源内訳	国庫支出金					
	都支出金					
	その他〔 〕					
一般財源	864					

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
基本的な生活習慣が身についている1年生の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：基本的な生活習慣が身についている1年生の数 B：1年生の児童総数 ※以下の項目の達成状況で評価。 ・姿勢良く座ることができる ・静かに話をきくことができる ・1人でトイレを済ませることができる	—	92%					80%	5
あいさつや返事ができる1年生の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：あいさつができる1年生の数 B：1年生の児童総数	—	94%					80%	5

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	29年4月に実施した、区立小学校第1学年に関するアンケート調査の結果、大きく目標値をクリアしており、あだち5歳児プログラムの実践及び12年目を迎えた幼保小連携活動の成果が反映していると思われる。
事業の進捗状況 (現状分析)	25年3月に一部改定した「あだち5歳児プログラム」に基づき、適切な時期に効果的な指導を行っている。29年度は30年4月に保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改定されることに伴い、これらの内容をあだち5歳児プログラムに反映させ、幼児教育と小学校教育の接続の一層の強化を図る必要があるため、あだち5歳児プログラム改定委員会を設置し、改定について検討を進める予定である。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	—	アンケート実施前に設定した目標値であるため、次年度の実績値の推移をみながら評価することとする。H28は高い実績値ではあったが、5歳児プログラムについては区立園を中心とした実施にとどまっているため、私立園へのひろがり期待する。また、「5歳児プログラム」見直しについては、就学前から就学後への接続の一層の強化につながるものとなるよう努めていただきたい。
------	---	--

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

就学前教育推進課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-2	就学前からの学びの基礎づくり				
事業名	1-2-③	子ども同士の交流活動				
事業内容	園児が小学校の授業や給食などを体験することによって、小学校の様子を肌で感じ、入学への期待や意欲を高めまます。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	3,655	361	0	0	
	事業費	199	361			
	人件費	3,456	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.4			
		計	3,456	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
財源内訳	国庫支出金					
	都支出金					
	その他〔 〕					
財源内訳	一般財源	3,655				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
小学校との交流を行った園の割合	(対象) 幼保小連携ブロック会議に参加している園  (算出式) $\frac{A}{B}$ A：交流活動を実施した園数 B：幼保小連携ブロック会議に参加している園の総数	84%	88%				90%	5	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	①園児は、小学校就学に対する不安解消や期待を膨らませる良い機会となった。 ②1年生は、自分の成長を振り返る機会となり、成長を感じることができた。 ③小学校の児童は、新1年生を思いやり、上級生として相手を思いやる気持ちがあった。
事業の進捗状況 (現状分析)	①交流を行う園数や園児数が多い場合は、実施時期、場所等の調整が必要である。 ②連携先の固定化傾向となっている。交流活動の計画にあたっては、工夫が必要である。 ③年々、園数が増加し、ブロック会議での話し合いの時間が限られている。折角の機会なので、各ブロックの状況に応じて、会議の進め方等を工夫する必要がある。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	子ども同士の交流活動は、園児、小学校の児童ともに貴重な体験となるものであるため、実施園が増えている点はそのまじい。ブロック会議等を通じて、職員同士の日常的な関わりを深め、活動内容の充実に向けて努めていただきたい。
------	-------	--





## 施策 1-3

発達支援児など子どもの状況に  
応じた支援の充実



平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-3	発達支援児など子どもの状況に応じた支援の充実				
事業名	1-3-①	発達支援児の早期発見・早期支援の取り組み				
事業内容	発達支援児を早期に発見し、身近な地域で一貫した適切な支援を行うため、関係機関との連携を図り子どもの発達を継続的に支援します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	713	318	0	0	
	事業費	332	318			
	人件費	381	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.04			
	非常勤	計	346	0	0	0
		平均給与	3,576			
	非常勤	人数	0.01			
		計	36	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0	0		
	都支出金	0	0			
	その他〔 〕	0	0			
	一般財源	713				

■ 指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度	
			H27	H28	H29	H30	H31			
発達の遅れが疑われる3歳児の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：3歳児健康診査で要精密検査対象とされた人数 B：3歳児健康診査受診者数	H27	0.28%	0.1%				H31	0.30%	1

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■ 事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	発達の遅れが疑われる3歳児の割合は、平成27年度より減少している。乳幼児健康診査は、発達の遅れた子どもを発見する大切な機会となっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	発達の遅れが疑われる3歳児は一定程度認められ、その割合は年度により異なることが予想される。今後も発達の遅れた子どもを確実に発見するためにも小児科専門医による質が担保された乳幼児健康診査を継続して実施していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	乳幼児健康診査は受診率が高く、発達の遅れた子どもをスクリーニングする場として有効であると考え。早期発見の精度を上げるとともに、早期支援の充実に努めていただきたい。
------	-------	---

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-3	発達支援児など子どもの状況に応じた支援の充実				
事業名	1-3-②	乳幼児経過観察健康診査・乳幼児療育指導				
事業内容	乳幼児健康診査や訪問・相談などから心身の発育・発達などに不安のある乳幼児に対し、健康診査及び相談を行います。必要に応じ心理相談、発達評価専門医による療育相談を行います。家族を含め継続した支援を実施しています。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	1,729	1,271	0	0	
	事業費	事業費	829	1,271		
		人件費	900	0	0	0
	総事業費内訳	常勤	平均給与	8,641		
		人数	計	864	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.01			
	計		36	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0	0		
	都支出金	0	0			
	その他（ ）	0	0			
	一般財源	1,729				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
		H27	H28	H29	H30	H31	H31		
対象者数に対する受診率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：受診者数 B：対象者数	乳児 81.8% 1歳6か月 86.5% 3歳 82.6% 療育指導 86.8%	乳児 83.4% 1歳6か月 80.2% 3歳 76.0% 療育指導 93.8%					各90%	乳児 4 1歳6か月 1 3歳 1 療育指導 5

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	乳児経過観察健康診査の受診率は平成27年度に比べ増加し、幼児経過観察健康診査の受診率は減少、療育指導の受診率は増加している。経過観察健康診査及び療育指導は、発達障害の正確な判断や発達障害のある子どもへの接し方などの助言を行う大切な機会となっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	経過観察健康診査及び養育指導の目的・大切さを分かりやすく伝え、受診率向上を図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	早期に適切な養育支援を行っていくためにも、受診率を向上させるための働きかけを進めていただきたい。
------	-------	--

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課： こども支援センターげんき支援管理課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-3	発達支援児など子どもの状況に応じた支援の充実				
事業名	1-3-③	発達支援児の総合的な支援				
事業内容	発達支援児に関する相談に応じます。また、関係機関と連携し、住み慣れた地域で健やかに成長していくための支援を行います。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	20,904	4,830	0	0	
	事業費	134	4,830			
	人件費	20,770	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			8,641
		人数	0.5			
		計	4,321	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			3,576
		人数	4.6			
		計	16,450	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	7,352			
都支出金		3,676				
その他〔 〕						
	一般財源	9,876		0	0	

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
		H27	H28	H29	H30	H31	H31		
障がい福祉センター※で受けた発達支援児に関する相談事案のうち、保健センター、保育園・幼稚園等、こども支援センターげんきからの紹介により受けた相談事案が占める割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：保健センター等からの紹介による発達支援児に関する相談件数 B：障がい福祉センター※における発達支援児に関する全相談件数 ※H29年4月以降、所管課がこども支援センターげんきに変更	66%	67.3%				80%	2	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	連携先からの相談件数は昨年度より34件増加したが、全件数も増加したため割合は微増であった。
事業の進捗状況 (現状分析)	保健センター、保育園・幼稚園等からの相談数は横ばい。 こども支援センターげんきからの相談は増加した。今後も連携を深め地域で健やかに成長をしていくための支援を行っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	関係機関間の連携が継続的になされていることが伺える。引き続き、関係機関の役割を明確にし、それぞれの役割に応じた支援体制の強化に努めていただきたい。
------	-------	---

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課 こども支援センターげんき支援管理課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む					
施策	1-3	発達支援児など子どもの状況に応じた支援の充実					
事業名	1-3-④	発達支援委員会の開催・園巡回指導					
事業内容	発達支援委員会で検討された指導内容を保育所等に助言し、児童に適した保育の実践を支援します。個別支援計画の作成を促し、保護者への育児支援の一助とします。						
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31		
	総事業費	8,978	3,051	0	0		
	総事業費内訳	事業費	337	3,051			
		人件費	平均給与	8,641	0	0	0
			人数	1.0			
		常勤	計	8,641	0	0	0
			平均給与	3,576			
		非常勤	人数	0	0		
	計		0	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金					
		都支出金					
その他〔 〕							
	一般財源	8,978					

■ 指標

指標名	指標の定義	基準値 H27	実績値					目標値 H31	進捗度
			H28	H29	H30	H31			
継続支援児のうち、支援の程度がⅠまたはⅡと判定された児童の割合 【低減目標】	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：支援の程度 <sup>*</sup> がⅠまたはⅡと判定された継続支援児数 B：継続支援児の総数  ※支援の程度	55%	72%				50%	1	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度) 5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■ 事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	発達支援委員会の結果を保育に活かすことで、統合保育の一助とする。保護者と共に作成する個別支援計画を基に合理的配慮事項を就学先などに伝え、支援の継続性を図る。
事業の進捗状況 (現状分析)	28年度は発達支援児の入園枠が撤廃され、各園に多くの支援児が入園した。そのことで保育の安定が保てず、苦慮している様子が伺えた。29年度は心理士巡回回数を増やし保育上の困り感軽減に努めたい。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	入園枠の撤廃により、発達支援児の判定数が増加しており、園現場への巡回を強化し、個々の発達状況を確実に捉え、より丁寧な支援に努めていただきたい。
------	-------	---

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課 こども支援センターげんき支援管理課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む					
施策	1-3	発達支援児など子どもの状況に応じた支援の充実					
事業名	1-3-⑤	従事職員のスキルアップ研修					
事業内容	保育園、幼稚園等の職員を対象に研修を実施し、統合保育の充実を図ります。						
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31		
	総事業費	1,908	180	0	0		
	総事業費内訳	事業費	180	180			
		人件費	1,728	0	0	0	
		常勤	平均給与	8,641			
			人数	0.2			
			計	1,728	0	0	0
		非常勤	平均給与	3,576			
			人数		0		
	計		0	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金					
都支支出金							
その他〔 〕							
一般財源	1,908						

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
		H27	H28	H29	H30	H31	H31		
研修最終日に実施する確認(習熟度)テストで、80点以上を獲得した受講者の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：80点以上を獲得した受講者数 B：全受講者数※ ※全9講座、41名が受講	—	19%				80%	2	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	発達障がい研修（全9講座）受講後、内容の習得度をはかる。研修内容に反映をさせることで、より理解しやすい研修内容に活かせる。受講者が知識を習得することで統合保育の充実の一助となる
事業の進捗状況 (現状分析)	確認テストを実施したが、目標の%取得には到達しなかった。今後の研修内容を再検討し、より受講生に理解しやすい内容にしていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	子どもの特性に応じた専門的な知識・技術のある人材を確保していくためにも、引き続き、研修内容の充実に努めていただきたい。
------	-------	---





## 施策1-4

子ども・若者が社会と関わる力  
を育むための成長支援



平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

地域文化課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-4	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援				
事業名	1-4-①	ギャラクシティでの多様な体験活動の提供				
事業内容	子ども達の成長の糧となる多様な体験活動を提供し、参加した子ども達の好奇心をかき立てます。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	555,546	566,440	0	0	
	事業費	529,623	566,440			
	人件費	25,923	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	3			
	非常勤	平均給与	3,576	0	0	0
		人数	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
		都支出金	0			
	その他〔 〕	65,910				
	一般財源	489,636				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
「ギャラクシティに複数回、来館している」と回答した方の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：ギャラクシティに複数回、来館していると回答した方 B：アンケートに回答した方	49.5%	65				60%	5	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	科学実験、ものづくり、運動、食育、プラネタリウムなどの多様な体験活動の提供は、知的好奇心や運動能力、チャレンジ精神の向上など子ども達の成長に有効である。
事業の進捗状況 (現状分析)	上記の体験活動の他、リピーターの核である区民を誘致するための、平日午後のプログラミング教室の新設やコミュニティバスへの広告を実施した。さらに、乳幼児とその親子の触れ合い事業などの実施によりリピーターのポイントが増加した。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	子どもたちの成長につながるイベント・プログラムを充実させるだけでなく、様々な事業を体験してもらうために、リピーターを増やす工夫にも取り組んでいる点は非常に評価できる。繰り返し来館し、様々な活動を体験できる仕組みづくりに、引き続き取り組んでいただきたい。
------	-------	--

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

教育政策課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-4	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援				
事業名	1-4-②	あだち放課後子ども教室				
事業内容	地域の参画を得て、放課後の小学校の校庭や体育館、図書室等で、自由遊びや読書、自主学習の場を提供します。H22年度に区内全小学校での開設が達成されました。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	234,782	231,995	0	0	
	事業費	事業費	221,588	231,995		
		人件費	13,194	0	0	0
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	1.32			
		計	11,406	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.5			
		計	1,788	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	0				
	都支出金	127,661				
	その他〔 〕	0				
	一般財源	107,121				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値				目標値	進捗度
		H27	H28	H29	H30	H31	H31	
区内全小学校(69校)のうち、全学年(1~6年)を対象に実施している小学校数	全学年を対象として放課後子ども教室を実施している小学校数	57校	60校				施設ごとの環境整備に合わせ、全校全学年実施を目指す	5

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	地域の子どもや大人たちとの交流を通じて、家庭以外の人間関係を学ぶことで、生きる力や社会と関わる力を身に付けることができる。 また様々な体験を通じて、多様な価値観にふれることで、自尊感情を高めることができる。
事業の進捗状況 (現状分析)	安定的かつ継続的な事業運営を進めつつ、全校での全学年実施や体験活動の更なる充実について、生涯学習振興公社と共に支援に努めている。 また、足立区放課後子ども総合プランに基づき、学童保育室との連携をより一層深めていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	全学年実施校が増加したことは、実行委員会や学校と粘り強く協議を進めた結果であると評価できる。未達成校については、個別の課題への対応に、引き続き取り組んでいただきたい。また、魅力ある活動の場となるよう、体験プログラムの更なる充実にも努めていただきたい。
------	-------	---

## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

子ども家庭部青少年課

施策群	1	家庭・地域と連携し、子どもの学びを支え育む				
施策	1-4	子ども・若者が社会と関わる力を育むための成長支援				
事業名	1-4-③	ジュニアリーダーの育成				
事業内容	研修会で動機づけを行い、子ども会を中心とした地域活動のリーダーを育成します。 (対象：中学生)					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	8,833	420	0	0	
	事業費	192	420			
	人件費	8,641	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	1			
		計	8,641	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
都支出金		0				
その他〔 〕		0				
一般財源		8,833				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
子ども会のリーダーを育成する研修会を修了後、リーダーとなった割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：子ども会のリーダーとなった研修受講者数 B：研修受講者数(対象は中学生)	24%	36%				60%	5	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	28年度に研修会へ参加した中学生は28名であり、うち10名が引き続きジュニアリーダーとして研鑽を積むこととなった。少年団体連合協議会や地区少年団体協議会、地区青少年問題協議会の行事に積極的に参加し経験をつんでいる。
事業の進捗状況 (現状分析)	29年度は23名の参加で事業がスタートしている。うち半数は前年度小学生で参加し継続している。リーダーの役割や楽しさを経験してもらい、目標値に近いリーダーの要請を目指して行く。今後は、参加者にとって魅力あるプログラムを提供できるよう検討して、利用者の増を目指していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	ジュニアリーダーの育成を通じて、体験の場と様々な人との関わりの場を提供することで、地域の青少年健全育成の推進につながっているものと考えている。これからも、将来の地域活動の担い手となるべく人材の育成に努めていきたい。
------	-------	---



## 施策2-1

妊娠から出産・子育てまで切れ目  
なく支える





## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実				
事業名	2-1-①	妊婦健康診査				
事業内容	妊婦健康診査の受診により、健康管理、流・早産の防止、妊産婦・乳幼児死亡率の低下に努めます（妊婦1人あたり全14回受診可）。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	446,399	470,626	0	0	
	事業費	434,033	470,626			
	人件費	12,366	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	1.1			
		計	9,505	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.8			
		計	2,861	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
		都支出金	0			
その他〔 〕		0				
一般財源		446,399				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
妊婦一人あたりの健康診査(全14回)の受診率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：妊婦健康診査の受診数 B：妊娠届出者数×14回	86.1%	81.0%				90%	1	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	妊婦一人あたりの健康診査受診率は、平成27年度より減少しているが、全14回分交付された妊婦健康診査票が必ずすべて使用されるわけではないため、実際の受診率はこの数値より高いと思われる。妊婦の健康管理と経済的負担を軽減することにより安心して出産を迎えられる制度である。
事業の進捗状況 (現状分析)	妊婦健康診査は、定期的に健診を受けることにより、胎児の発育状態や母体の異常を早期発見するために重要である。平成28年度から妊婦子宮頸がん検診を追加し、多胎妊娠の際は15回目の助成を実施している。必要である健診回数をきちんと受診することを勧奨していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	☆☆☆☆☆	必要である健診の回数を受診してもらえよう、様々な機会を通じて勧奨していくことを期待する。
------	-------	--

平成29年度 事業分析表 (平成28年度事業実施分)

作成担当課

保健予防課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える					
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実					
事業名	2-1-②	妊産婦家庭訪問事業					
事業内容	妊娠週数に応じた妊婦の健康管理を行い、胎児の良好な発達を促し、流・早産、妊娠高血圧症候群、低出生体重児等の発生を防止します。						
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31		
	総事業費	85,952	6,408	0	0		
	総事業費内訳	事業費	2,855	6,408			
		人件費	83,097	0	0	0	
		常勤	平均給与	8,641			
			人数	9.00			
			計	77,769	0	0	0
		非常勤	平均給与	3,576			
			人数	1.49			
	計		5,328	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	820				
都支出金		820					
その他〔 〕		0					
一般財源		84,312					

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
妊娠届出者に対する訪問率	$\frac{A}{B}$ A: 延べ訪問件数(ASM A P※ +こんにちは赤ちゃん訪問) B: 妊娠届出者数  ※妊娠期から産後期の母子保健事業を充実することにより、養育困難や児童虐待を未然に防ぎ、健やか親子の成長を支える仕組みの総称	91%	96%				100%	5	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	妊娠届出者に対する訪問率は、平成27年度より増加した。産前産後支援事業として、ハイリスク妊婦に対し複数回訪問を行うことで、妊娠中の適切な生活習慣を指導している。それにより、胎児の良好な発達を促し、低出生体重児等の発生防止につながっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	引き続き妊娠期から保健師・助産師による家庭訪問などの個別支援の充実を図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	平成28年度からASM A P事業による妊娠期からの訪問件数が増加しており、評価できる。引き続き、個別支援の充実に努めていただきたい。
------	-------	---

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

こども家庭支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実				
事業名	2-1-③	子育てホームヘルプサービス事業				
事業内容	産前産後の妊産婦がいる家庭を対象に、家事を支援するホームヘルパーを派遣します。 (H28年度新規事業)					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	2,521	1,685	0	0	
	事業費	435	1,685			
	人件費	2,086	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.2			
		計	1,728	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.1	0		
		計	358	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
	都支出金	164				
	その他〔 〕	0				
	一般財源	2,357				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値			目標値	進捗度
			H27	H28	H29		
年間延べ利用件数	子育てホームヘルプサービス事業の年間延べ利用件数	314件	554件	/	/	809件	5
年間実利用人数	子育てホームヘルプサービス事業の年間実利用人数	41人	52人	/	/	100人	4

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5:80%以上、4:60~80%未満、3:40~60%未満、2:20~40%未満、1:20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	平成28年度より、産前産後家事支援事業の委託先を、介護事業者に変更（H28は経過措置として、従前の一時預かり事業のNPO法人でも実施）し、家事支援に特化できるようにし、利用実績も増えてきた。 産前産後の時期に、気軽に利用できる家事支援サービスであり、施策に対し有効である。
事業の進捗状況 (現状分析)	妊娠中から利用ができるため、衛生部と連携し、サービスの周知を図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	委託先を介護事業者に変更し、資格を持ったホームヘルパーによる支援が行えることになった効果が表れていることが伺える。親族等の援助が望めない妊産婦にとっては、当該事業は様々な負担感の軽減につながるものであるため、衛生部とも連携し、サービスの周知に努めていただきたい。
------	-------	---

## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える					
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実					
事業名	2-1-④	ファミリー学級（旧 母親学級・両親学級）					
事業内容	妊婦及びその家族に対する健康教育の充実を図るとともに、父親も参加できる子育ての仲間づくりを行い、交流を図ります（4回制（母親学級3回、両親学級1回））。						
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31		
	総事業費	8,800	5,337	0	0		
	総事業費内訳	事業費	5,245	5,337			
		人件費	3,555	0	0	0	
		常勤	平均給与	8,641			
			人数	0.37			
			計	3,197	0	0	0
		非常勤	平均給与	3,576			
	人数		0.1				
	計		358	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	0				
都支出金	0						
その他〔 〕	0						
一般財源	8,800						

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
妊娠届出者数に占める両親学級への参加率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：両親学級への参加者数 B：妊娠届出者数×2※ ※参加者数が両親での参加のため、便宜上、2倍にしています。	22.1%	18.8%				25%	1	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	妊娠届出者数に占める両親学級への参加率は、平成27年度より減少した。東部保健センターの移転により、スペースの関係から1回の開催で受講できる人数が減ったことも要因のひとつと考えられる。両親学級は、地域での仲間づくりや父親の育児参加を促し、育児不安解消等につなげている。
事業の進捗状況 (現状分析)	平成29年度から、母親以外の保護者も参加しやすいように、教室の名称を「ファミリー学級」と変更した。父親ハンドブックの配付も開始し、父親の育児参加を促す働きかけをしている。参加者同士の交流により、出産前後の不安解消にも重要な役割を果たしているため、今後とも参加率の向上を図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	☆☆☆☆☆	出産前後の不安解消につながるだけでなく、父親の育児参加を促す働きかけも行っていることは評価できる。今年度は、スペースの都合もあり参加率が減ったとのことであるが、今後もより多くの方々に参加していただけるよう取り組んでいきたい。
------	-------	--

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実				
事業名	2-1-⑤	こんにちは赤ちゃん訪問事業				
事業内容	保健師または助産師が訪問。育児不安の軽減、養育上必要な助言、指導、支援を行います。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	94,447	31,846	0	0	
	事業費	26,177	31,846			
	人件費	68,270	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	7.4			
		計	63,943	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	1.21			
		計	4,327	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	9,100			
	都支出金	9,100				
	その他〔 〕	0				
	一般財源	76,247				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
訪問実施率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：延べ訪問件数 B：訪問連絡票届出(希望)件数	99.8%	95.8%				100%	—	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	訪問実施率(暫定値)は、平成27年度に比べ若干減少した。2月・3月生まれの乳児は現在訪問中であるため、最終的な実施率は例年並みと思われる。支援を必要とする世帯に対して、複数回訪問を実施するなど十分な支援ができるように努めている。
事業の進捗状況 (現状分析)	赤ちゃん訪問事業は、乳児の発育状況の確認及び育児不安の軽減などを図る貴重な機会となっている。平成28年度からASMAP事業を本格実施したことにより、支援が必要な世帯に対し、妊娠期から産後まで継続した支援を行っている。今後も安心して子育てができるような仕組みの充実を図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	暫定値であるため、数値による評価はできないが、ASMAP事業の本格実施により、特に支援を必要とする世帯への複数回訪問など個別支援を強化している点は評価できる。ASMAP事業の分析・評価を実施し、更なる充実を図っていただきたい。
------	-------	---

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実				
事業名	2-1-⑥	乳幼児健康診査（乳児、1歳6か月児、3歳児）				
事業内容	月齢に応じた健康診査を行い、発育・発達状況や疾病の有無等の確認及び相談を実施し、子育ての不安を軽減します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	297,727	135,019	0	0	
	事業費	132,651	135,019			
	人件費	165,076	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	16.0			
		計	138,256	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	7.50			
		計	26,820	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	0	0			
	都支出金	0	0			
	その他〔 〕	0	0			
	一般財源	297,727				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
各健康診査の受診率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：各健康診査の受診者数 B：各健康診査の対象者数	3～4か月児 97.9%	3～4か月児 95.8%	/	/	/	3～4か月児 99.2%	3～4か月児 99.2%	3～4か月児 1
		6か月児 97.6%	6か月児 93.2%				6か月児 98%	6か月児 98%	6か月児 1
		9か月児 92.0%	9か月児 92.4%				9か月児 95%	9か月児 95%	9か月児 3
		1歳6か月児 88.4%	1歳6か月児 88.6%				1歳6か月児 90%	1歳6か月児 90%	1歳6か月児 3
		3歳児 93.9%	3歳児 95.4%				3歳児 95%	3歳児 95%	3歳児 5

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	各健康診査の受診率は、平成27年度と比べ、ほぼ同様に推移している。3～4か月児健康診査の主な未受診理由は、海外への出国、長期入院や疾患等による医療機関受診である。健診での相談は、母親の育児不安を軽減するなど、安心して育児ができるよう支援する場となっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	乳幼児健診は、発育状態の確認、疾病の予防・早期発見のほか、母親の状況確認や相談の機会となっている。平成28年度からASMAP事業を本格実施したことにより、赤ちゃん訪問ができなかった世帯に対し、3～4か月児健康診査で乳児・母親の状況確認をするなどフォローを行っている。虐待防止や育児不安解消に努めるとともに高い受診率を維持していくための受診勧奨を継続していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	受診率はほぼ例年どおり推移しているが、未受診者に対して、関係機関とも連携しながらフォローしている点は高く評価できる。ASMAP事業による妊娠期から乳幼児期まで切れ目のない支援を行っており、今後も個別支援の充実に努めていただきたい。
------	-------	---

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

保健予防課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実				
事業名	2-1-⑦	子育て健康ひろば				
事業内容	区内5箇所の保健センター等(中央本町、千住、竹の塚、東部、江北)を、親子の健康づくり活動の拠点、地域の親子の交流の場とします。					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	122	0	0	0	
	事業費	事業費	0	0		
		人件費	122	0	0	0
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.01			
		計	86	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.01			
		計	36	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	0				
	都支出金	0				
	その他〔 〕	0				
	一般財源	122				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
0歳から2歳児までの親子の参加率	$\frac{A}{B} \times 2^*$ A：親子の参加人数 B：0、1、2歳の総人口 ※参加人数を親子の参加者数で集計しているため、便宜上、2倍にしています。	25.1%	25.4%				30%	2	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	子育て健康ひろばの参加率は、平成27年度に比べ若干増加した。子育て健康ひろばは、親と子の触れ合いだけでなく、子育てに関する情報を取得する機会、親同士及び子ども同士の仲間づくりの機会となっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	子育て健康ひろばの広報の仕方を工夫し、参加率の向上を図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	親子だけでなく、親同士、子ども同士の交流の場のひとつとして、今後も参加率の向上を図っていただきたい。
------	-------	--

## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

住区推進課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-1	妊娠、出産、子育てへの切れ目のない支援の充実				
事業名	2-1-⑧	子育てサロン				
事業内容	・乳幼児の親子の交流と仲間づくりの場を提供します。 ・乳幼児の年齢、発達に合わせた親子での遊びを提供します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	99,732	94,448	0	0	
	事業費	90,140	94,448			
	人件費	9,592	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	1.11			
		計	9,592	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	14,325			
都支出金		14,325				
その他〔 〕						
一般財源		71,082				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値			目標値	進捗度	
		H27	H28	H29	H30	H31		
子育てサロンの利用者数	区内63箇所にある子育てサロンの利用者総数	413,731人 内訳) ・0～3歳児 177,171人 ・4歳児以上 34,911人 ・大人 201,649人	415,758人 内訳) ・0～3歳児 179,141人 ・4歳児以上 33,751人 ・大人 202,866人				440,000人	2

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者から要望の多かったベビーマッサージや親子体操等のイベントを実施したり、「あだちはじめてえほん」の絵本配布により、子育てサロンを多くの人に知ってもらうように努め、利用者の増加につなげた。</li> <li>保育コンシェルジュによる相談の実施や、保健センターによる乳幼児親子講座等を通して、関係機関と連携を図ることで相談体制が充実された。</li> </ul>
事業の進捗状況 (現状分析)	<ul style="list-style-type: none"> <li>イクメン講座の回数や実施するサロンを増やし、父親等の育児参画の推進を図っている。</li> <li>今後は、出産直後の不安や孤立感を軽減できるように、子育てサロンを妊婦の時期から利用できる環境整備と周知を行っていく。</li> </ul>

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	新たなイベントの実施、相談体制の充実などを通じて、利用者数が増えており、評価できる。今後は、妊娠期から利用できる環境を整備していくということであるので、更なる利用者の拡大と地域における身近な子育て支援施設としての役割を期待する。
------	-------	--



## 施策2-2

### 子育てと仕事の両立支援



## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

子ども施設整備課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援				
事業名	2-2-①	保育施設等の整備				
事業内容	働きながら安心して子育てできる環境づくりを推進するため、様々な保育ニーズに合わせた保育施設等の整備をより一層進めていきます。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	422,156	2,340,156	0	0	
	事業費	396,233	2,340,156			
	人件費	25,923	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	3.0			
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
	計	25,923	0	0	0	
	計	0	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	85,332			
	都支出金	237,910				
	その他〔基金〕	72,991				
	一般財源	25,923				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
保育需要に対する待機児童率 【低減目標】	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：待機児童数 B：保育需要数(各保育施設等の利用児童数+待機児童数)	2.4%	2.85%				0%	1	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	平成28年度中に認可保育所4園、認証保育所1園、小規模保育3施設の新規整備を行い、493人分の定員数拡大をおこなった。これにより、29年4月における保育所等の利用者数は昨年比380人増の12,740人となっており、子育てと仕事の両立支援に大きく貢献していると思われる。
事業の進捗状況 (現状分析)	29年4月においては0～2歳児の保育需要率が想定約2倍にあたる2.9ポイント上昇したことから待機児童数は昨年比68人増加の374人となった。この結果、指標（低減目標）は0.45ポイント上昇した。29年度整備分として1,055人分の定数拡大を計画しているが、目標としていた30年4月時点での待機児童解消は困難となった。今後は需要予測の見直しを行い、新たな整備目標にもとづき、施設整備以外の手法も取り入れて定員拡大を図り、なるべく早期の待機児童解消を目指していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	残念ながら、待機児童率は増となったが、子育てと仕事の両立支援のために保育施設等を必要な地域に必要な量を整備していくという方向性は評価できる。需要予測の手法を見直し、あわせて施設整備以外の取り組みも充実させながら、できるだけ早期に待機児童が解消されることを期待する。
------	-------	--

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

子ども施設整備課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える					
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援					
事業名	2-2-②	保育士確保・定着対策					
事業内容	区内保育施設に就職した保育士等への経済的な支援や就職相談会・再就職セミナーの開催による就職支援を行うことで、保育士の確保・定着及び保育の質の維持・向上を図ります。						
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31		
	総事業費	90,255	175,712	0	0		
	総事業費内訳	事業費	77,293	5,176			
		常勤	人件費	12,962	0	0	0
			平均給与	8,641			
			人数	1.5			
		非常勤	計	12,962	0	0	0
			平均給与	3,576			
	人数		0				
	財源内訳	国庫支出金	24,640				
都支出金		32,546					
その他〔 〕 一般財源		33,069					

■ 指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
就職相談会等の ①実施回数 ②参加者数	就職相談会等の①実施回数 と②その参加者数	① 4回 ②181人	① 5回 ②181人				① 7回 ②370人	① 5 ② 1	
経済支援補助金の利用者数	保育士奨学金返済支援（H28年度から実施）及び保育士等住居借上げ支援（H28年1月から実施）の利用者数	26人	175				370人	5	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度（便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度）  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■ 事業の分析

活動実績に対する分析 （施策に対する有効性の評価）	就職相談会等には、潜在保育士等147人、学生110人が参加し就職活動に効果あり。事業者の採用活動を間接的に支援した。また、住居借上げ支援及び奨学金返済支援については、受給要件を緩和し、利用者増を図り、保育施設確保に貢献した。 なお、区が実施した再就職セミナー参加者に対するアンケート（住所を把握できている29人に実施）では、13人から回答があった。それによると、6人が再就職した。内訳はフルタイム3名、パートタイム3名であった。また、再就職していなかった7名からは、子育て中で預け先がない、自分の希望する時間帯（子どもが幼稚園に行っている時間帯）の求人がない等の意見があった。
事業の進捗状況 （現状分析）	保育士養成学校、ハローワーク、保育事業者と連携し各事業を展開している。住居借上げ支援及び奨学金返済支援については定員に余裕があるため、範囲を広げたPR活動に努め、参加者を増やし保育士、看護師確保を進めていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	待機児童の解消を目指していくなかで、保育士不足の問題は大きな課題のひとつである。特に、保育士奨学金返済支援は足立区の独自施策であり、実績値も伸びており、評価できる。ただし、就職相談会の参加者数が伸びていないため、総合評価は3とした。更なるPR活動に努め、保育士の確保につなげていただきたい。
------	-------	---

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

子ども施設整備課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援				
事業名	2-2-③	認証保育所の認可化移行支援				
事業内容	3歳児からの受け入れ定員が不足する見込みの地域において、就学前までの持ち上がりが可能な定員を確保できるなど、一定の条件を満たす認証保育所の認可化を支援していきます。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	18,794	296,250	0	0	
	事業費	17,066	296,250			
	人件費	1,728	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.2			
		計	1,728	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	12,852			
都支出金		2,810				
その他〔基金〕		1,404				
一般財源		1,728				

■指標

指標名	指標の定義	基準値 H27	実績値					目標値 H31	進捗度
			H28	H29	H30	H31			
移行した認証保育所の数	H28年度から31年度までの間に、認可化した認証保育所の累計数	— (実績なし)	3所				5所	4	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	3施設の認可化により施設定員数が拡充されたことで、認可化を行わなかった場合と比べると待機児の解消に繋がっており、子育てと仕事の両立支援に貢献していると思われる。
事業の進捗状況 (現状分析)	平成29年度は2施設の認可化に向けて都への手続きを進めている。今後も小規模保育・家庭的保育の卒園児の受皿となる定員を確保していく必要があるため、3歳児以降の定員の不足が見込まれる地域において、一定の条件を満たす認証保育所の認可化移行を支援していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	認証保育所が認可化することにより、①定員数の拡充、②3歳児以降の卒園後の受け皿の問題の解消、につながり、事業の方向性は評価できる。今後も、支援を継続していただきたい。
------	-------	---

## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

子ども施設入園課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援				
事業名	2-2-④	保育コンシェルジュ				
事業内容	保育施設の案内や預け先の相談に、専門の相談員がお応えします。保護者の希望やお子さまの様子などを伺いながら、個別のニーズに合った保育施設やサービスをご案内します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	14,612	8,900	0	0	
	事業費	7,460	8,900			
	人件費	7,152	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0	0		
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	2			
	財源内訳	国庫支出金	907			
		都支出金	907			
その他〔 〕						
一般財源	12,798					

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値				目標値	進捗度
		H27	H28	H29	H30	H31	H31	
相談者の満足度	相談者を対象としたアンケート調査による集計値	—	93.9				100%	5

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	保育コンシェルジュは区役所窓口での相談業務の他、子育てサロンや保健センター、子育てイベント等で出張相談やミニ説明会を実施した。また相談需要が増す10月、11月は特設会場を設置し、相談しやすい環境を整えた結果、年間利用件数は2,922件であった。世帯状況に応じた保育サービスの案内や情報提供を行い、保護者の預け先選びの幅を広げることで、施策に有効的に寄与した。
事業の進捗状況 (現状分析)	利用者アンケートでは、「各種保育施設の違いがわかった」「保活のやり方がわかった」など満足度93.9%と高い評価を得ており、きめ細やかな相談が保護者にとって有意義なものとなっている。一方で利用したことがない方へのアプローチが今後の課題であり、区の情報発信ツールなどを活用した保育コンシェルジュ制度の周知や情報の発信を積極的に行っていく必要がある。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	新たに利用者アンケートを実施し、事業の効果を検証したことは大いに評価できる。利用者がニーズに沿ったサービスを利用するために効果的な事業であるため、更なる事業の周知に努めていただきたい。
------	-------	--

平成29年度 事業分析表 (平成28年度事業実施分)

作成担当課

子ども施設指導支援担当課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援				
事業名	2-2-⑤	保育施設等への指導検査の実施				
事業内容	児童福祉行政の適正かつ円滑な実施を確保するため、保育施設等への指導検査を実施します(H28年度から実施)。また、指導検査とは別に、保育施設等への実地調査を実施しています。					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	52,784	7,342	0	0	
	事業費	938	7,342			
	人件費	51,846	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	6			
		計	51,846	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
		都支出金	0			
その他〔 〕		0				
一般財源		52,784				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
指導検査において「文書指摘」または「口頭指導」となった保育施設等の割合【低減目標】	(算出式) $\frac{A}{B}$ A: 指導検査項目(運営・保育・会計)のうち、「保育」について文書指摘または口頭指導をされた保育施設等の数 B: 指導検査を実施した保育施設等の総数	—	0					0%	5
指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった項目が、次の実地調査の際に改善されていた保育施設等の割合	(算出式) $\frac{A}{B}$ A: 改善されていた保育施設等の総数 B: 指導検査で「文書指摘」または「口頭指導」となった保育施設等の総数	—	—					100%	—

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度) 5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	平成28年度は、小規模保育施設5園、家庭的保育事業10事業所の指導検査を行った。文書指摘と口頭指導はなかったが、助言は全施設であり、後日改善されているか確認したところ、全て改善されていた。
事業の進捗状況 (現状分析)	平成29年度は、小規模保育施設10園、家庭的保育事業50事業所、認可保育所6園で、指導検査を実施する予定である。6月下旬から最初の検査を開始する。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	—	指導検査に入るだけでなく、その後のフォローを実施している点は評価できる。今後、区内の教育・保育施設の質の向上のために、適正かつ的確な検査の実施を期待する。指導検査の本格実施はH29年度からであるため、総合評価は、次年度、行うこととしたい。
------	---	---

## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

住区推進課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える					
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援					
事業名	2-2-⑥	学童保育室の運営					
事業内容	保護者の就労や病気などにより放課後子どもを保育できない家庭の小学生を保育し、児童の健全育成を図ります。学童保育室の増員・増室とあわせ、補完策として児童館機能の充実や放課後子ども教室との連携を進め、保護者への学童保育室以外の居場所の情報提供を強化することで学童保育需要の適正化を図り、待機児童を解消していきます。また、都や区が実施する学童指導員向け研修の受講を奨励して指導員の専門性を高めるとともに、安全な保育に必要な職員数を配置し、放課後の保育の質の向上を図ります。						
事業費等	投入資源（千円）	H28実績		H29	H30	H31	
	総事業費	1,297,531		1,192,598	0	0	
	事業費	1,035,198		1,192,598			
	人件費	262,333		0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641				
		人数	17.53				
		計	151,477		0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576				
		人数	31				
		計	110,856		0	0	0
財源内訳	国庫支出金	168,882					
	都支出金	178,661					
	その他〔 〕	259,892					
	一般財源	690,096					

## ■ 指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
学童保育室の待機児童率 【低減目標】	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：待機児童数 B：入室申請者数	3.9%	3.4%				0%	3	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■ 事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	平成27年度より入室対象が小学6年生まで拡大され保育需要が大幅に増えたが、増室や定員の弾力化などにより、平成28年度の目標値である3.5%を若干ではあるが上回った。今後も目標を達成すべく増室や定員増とともに、児童館特例利用など放課後のすごし方の情報を積極的に提供していく。
事業の進捗状況 (現状分析)	ランドセルで児童館（児童館特例利用）や放課後子ども教室など学童保育以外の放課後のすごし方の情報提供をより積極的に行い、真に学童保育が必要な児童の受け入れと小学生の安全な居場所づくりを進めた。補完策として、児童館入退室メール配信サービスを15館で導入した。また、指導員の専門性を高めるため、東京都放課後児童支援員認定資格研修を119名が受講し支援員の認定資格を取得した。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	施設整備だけでなく、補完策も合わせて実施し、前年度より待機児童率が減少したことは評価できる。入室対象学年の拡大、夏休み以降の退室者の増など難しい点もあるかとは思いますが、真に必要な児童が入室できるよう、取り組みを進めていただきたい。また、支援員研修の受講を推進し、質の向上に努めている点も評価できる。
------	-------	--



平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

区民参画推進課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援				
事業名	2-2-⑦	ワーク・ライフ・バランス推進のための専門家派遣事業				
事業内容	労働条件の整備や業務改善を行い、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む企業に対して、社会保険労務士や経営コンサルタント等の専門家派遣による支援を行います。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	22,776	1,918	0	0	
	事業費	1,918	1,918			
	人件費	20,858	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	2.00			
		計	17,282	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	1.00			
		計	3,576	0	0	0
	財源	国庫支出金	0			
内訳	都支出金	0				
内訳	その他〔 〕	0				
内訳	一般財源	22,776				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
支援メニューを利用したワーク・ライフ・バランス推進に取り組む企業数	社会保険労務士または経営コンサルタントを派遣し経営改善等を図った企業数	3社(計4回派遣)	2社(計4回派遣)					社会保険労務士等の専門家派遣 10社に派遣  経営コンサルティング業務委託 5社に派遣	1

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度時点の目標値を設定し、その設定数値に対する進捗度とする)。  
5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	一般的にまだ馴染みの薄いワーク・ライフ・バランスの意味や必要性について、区民参画推進課では男女共同参画社会推進の観点から講座やセミナーによる経営者への周知とともに、一般区民に対して区民まつりに啓発ブースを設置し、ワーク・ライフ・バランスについてのアンケート調査、イクメン・フォトコンテストへの投票等を実施し、啓発に努めている。
事業の進捗状況 (現状分析)	「準備企業制度」について、区内企業への更なる周知に努めるとともに、足立区の特長である中小零細企業での取組み易さを助長する専門家派遣支援メニュー（コンサル・社会保険労務士等）について各企業の課題に合わせた活用の提案・周知を図って行き、準備企業数の増加を目指して行く

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	☆☆☆☆☆	平成27年度に支援メニューの組み換えを行ってから、実績が伸び悩んでいるように見受けられる。課題を整理するとともに、利用企業数の増に向けた取り組みを継続していただきたい。
------	-------	--

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課 区民参画推進課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援				
事業名	2-2-⑧	ワーク・ライフ・バランス推進企業認定制度				
事業内容	中小企業のワーク・ライフ・バランスの取り組みや成果を、ワーク・ライフ・バランス推進企業制度基準により認定します。認定企業を冊子や広報等で広くPRし、区内中小企業の取り組み意欲を喚起します。推進企業に認定するだけでなく、様々な支援サービスの提供や更新審査等によりその質の維持・向上を図り、ワーク・ライフ・バランス社会を推進します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	22,776	1,918	0	0	
	事業費	1,918	1,918			
	人件費	20,858	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	2.00			
		計	17,282	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	1.00			
		計	3,576	0	0	0
財源	国庫支出金	0				
内	都支出金	0				
訳	その他〔 〕	0				
	一般財源	22,776				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
足立区ワーク・ライフ・バランス認定企業の数	ワーク・ライフ・バランス推進企業として認定された企業の数（各年4月1日時点）	49社	52社				75社	3	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度時点の目標値を設定し、その設定数値に対する進捗度とする)。  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	ワーク・ライフ・バランスを推進し、子育てと仕事の両立できる社会醸成のためには、法令等の整備や経営者の意識改革に加え、長時間労働と生産性の分析・評価による過重労働の改善、さらに日本社会全体の「性別による役割分担意識」の改革が不可欠であると考えます。
事業の進捗状況 (現状分析)	ワーク・ライフ・バランス認定企業制度に加え、推進準備企業制度を創設した。その普及のため区内企業の有益な情報を蓄積している「しんきん協議会」からの紹介やセミナーに参加した企業への個別訪問を励行し、経営者の心に届く働きかけを継続している。29年度は、東京商工リサーチを活用した企業への働きかけについても実施している。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	経営者の心に届く働きかけを継続するとともに、東京商工リサーチを活用することで、働きかける企業数の増、それが準備企業→認定企業へとつながっていくことを期待する。
------	-------	---

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

区民参画推進課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-2	子育てと仕事の両立支援				
事業名	2-2-⑨	男性セミナーの実施				
事業内容	男性セミナーを実施し、父親が子どもと一緒に過ごす場を提供するとともに、年齢に応じた親子の時間を楽しむ機会を提供します。また、「子育てするパパ」同士の緩やかな繋がりを育み、パパサークル等の構築支援を行います。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	25,412	4,554	0	0	
	事業費	4,554	4,554			
	人件費	20,858	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	2.00			
		計	17,282	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	1.00			
		計	3,576	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	0				
都支出金	0					
その他〔 〕	0					
一般財源	25,412					

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	達成度
		H27	H28	H29	H30	H31	H31		
男性セミナーの ①実施回数 ②参加者数	男性セミナーの①実施回数と②参加者数	① 9回 ②261人	① 8回 ②541人				① 20回 ②500人	① 1 ② 5	
男性セミナーの満足度	参加者アンケートで、「満足」または「やや満足」と回答した参加者の割合  (算出式) $\frac{A}{B}$ A：「満足」または「やや満足」と回答した参加者数 B：アンケート回答者数	満足 77% やや満足 10%	満足 72% やや満足 10%				満足 95% やや満足 5%	1	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度時点の目標値を設定し、その設定数値に対する進捗度とする)。  
5：80%以上、4：60~80%未満、3：40~60%未満、2：20~40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	男性の参加希望者数は、実施時期や企画によるところの変動もあるが、参加者が増え満足度も高く今後も有効性が望まれる。
事業の進捗状況 (現状分析)	働き方改革やイクメンの啓発普及もあり、男性の講座等参加希望者数は増加傾向である。今後も時代のニーズに見合った魅力的な内容を計画して集客を図っていく。また、29年7月よりDV男性電話相談を開始。利用件数については未知数であるが、新たな受け皿として需要を見守りたい。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	アンケート結果で「満足」と回答した方が若干下がってはいるが、参加者数が大きく増えていることから、行ってみようと思わせるような魅力ある企画づくりが行われていることが伺える。今後も、イクメン等の普及・啓発のためにも、魅力的なセミナーを開催していただきたい。
------	-------	--



## 施策2-3

困難を抱える子育て家庭への  
支援と虐待の防止



## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

こども家庭支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-①	きかせて子育て訪問事業				
事業内容	出産または育児に対する孤立感や不安感を抱えた妊婦または未就学児のいる保護者を定期的に訪問し、傾聴等の支援を行います。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	4,681	3,647	0	0	
	事業費	1,373	3,647			
	人件費	3,308	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.3			
		計	2,592	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.2			
		計	715	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	0				
	都支出金	607				
	その他〔 〕	0				
	一般財源	4,074				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
利用者数 ※H29年2月から事業開始	きかせて子育て訪問の利用者数	—	0人				100人	—	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	平成28年度は、事業開始当初はサポーターを養成していたため、利用の実績はなかった。
事業の進捗状況 (現状分析)	引き続き、衛生部と連携し、利用者を増やす取組みを行う。 平成29年度中に、評価委員会による事業の評価を実施する。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	—	平成28年度は準備期間であったため、平成29年度の実績をもって、評価することとしたい。引き続き、衛生部との連携を進め、利用者を増やすための方策を検討していただきたい。
------	---	---

## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

こども家庭支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-②	メール配信事業「新米ママパパの子育てブログ」				
事業内容	初めて出産する母親が感じた子育ての悩みに対する助言を、ブログ調でメール配信し、育児不安への対処法や子どもの関わり方等を分かりやすく紹介します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	999	137	0	0	
	事業費	135	137			
	人件費	864	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.1			
		計	864	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	45				
	都支出金	45				
	その他〔 〕	0				
	一般財源	909				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
登録者数 ※H27年8月から事業開始	メール配信の登録者数	2,464人	4,958人				12,000人	5	
配信内容の満足度	登録者アンケート※で、「内容に満足している」と回答した登録者の割合 ※H29年度から実施予定  (算出式) $\frac{A}{B}$ A: 「内容に満足している」と回答した登録者数 B: アンケート回答者数	—	—				70%	—	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	平成28年度より、パパの視点からのブログ内容も追加した。妊娠中から未就学児までの内容となっており、育児不安への対処法なども紹介しており、施策に対し有効である。
事業の進捗状況 (現状分析)	登録者数は、増加しているが、アンケートを実施し、内容の充実についても図っていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	引き続き、登録者の増に向けての取り組みを進めていただきたい。平成29年度に実施するアンケート結果により、内容の更なる充実を期待する。
------	-------	--



平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

こども家庭支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-③	児童虐待対応				
事業内容	虐待被害の拡大防止となる児童虐待に係る通告制度の普及を図るとともに、児童、地域住民及び関係機関からの虐待通告を受け、迅速に対応します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	67,134	0	0	0	
	事業費	0	0			
	人件費	67,134	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	5.7			
		計	49,254	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	5.0			
		計	17,880	0	0	0
財源	国庫支出金	4,185				
内訳	都支出金	0				
内訳	その他〔 〕	0				
内訳	一般財源	62,949				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
児童虐待受理件数	こども支援センターげんきにおける児童虐待に関する受理件数	815件	778件				900件	1	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	児童虐待に関する通告数は、平成28年度は前年度より若干減少したものの、引き続き高い数字となっている。 児童虐待は、子どもの成長に影を落とすことにもなるため、負のスパイラルを断ち切るためにも、早期発見、早期対応が重要であり、施策に対する有効性は高い。
事業の進捗状況 (現状分析)	児童虐待に関する通告数は、若干減少したものの、児童虐待該当件数は増加しており、高い危機意識を持って取り組んでいく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	通告件数は、相変わらず高い数値で推移している。引き続き、虐待の疑いがある場合について、高い危機意識を持って取り組んでいただきたい。
------	-------	---

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

こども家庭支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-④	児童虐待防止講座（子育て交流講座(NP講座)、怒鳴らない子育て講座）の実施				
事業内容	保育施設の案内や預け先の相談に、専門の相談員がお応えします。保護者の希望やお子さまの様子などを伺いながら、個別のニーズに合った保育施設やサービスをご案内します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	3,504	884	0	0	
	事業費	852	884			
	人件費	2,652	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.1			
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.5			
	計	1,788	0	0	0	
	財源内訳	国庫支出金	55			
都支出金		392				
その他（ ）		0				
一般財源		3,057				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
延べ参加者数	講座への延べ参加者数	138人	99人				202人	1	
定員に対する参加率	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：全講座の参加者数 B：全講座の定員数	79.3%	44.20%				90%	1	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	平成28年度は怒鳴らない子育て講座入門編の回数を6回から8回に増やし、土曜開催、区内数ヶ所での開催を実施した。開催日や開催場所の工夫により、以前では参加できなかった地域の区民の参加にはつながった。しかし、舎人・花畑・佐野の地域学習センターで開催した講座は参加者が極端に少なかったこともあり、全体の参加者は減少した。
事業の進捗状況 (現状分析)	参加者の増加を図るため、開催場所や曜日の工夫をしていく。また、衛生部との連携等による参加者の増加も検討する。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	開催日や開催場所を工夫し、今まで参加できなかった地域の方の参加につながった点は、評価できる。本当に必要な方へのアプローチの難しさがあることは理解できるが、より参加者増へとつながる方法を工夫していただきたい。
------	-------	---

## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

親子支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-⑤	児童扶養手当				
事業内容	児童を養育しているひとり親等(家庭)に対して、手当を支給します。					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	3,080,183	3,190,607	0	0	
	事業費	3,008,968	3,190,607			
	人件費	71,215	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	7			
		計	60,487	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	3			
		計	10,728	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	997,801			
	都支出金	0				
	その他〔 〕	7,295				
	一般財源	2,075,087				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
児童扶養手当受給者数【低減目標】	児童扶養手当の受給者数	7,765人	7,668人				7,300人	5	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	受給者数はやや下降傾向がみられるが、ここ数年2~3%の範囲で推移しており、今後も同様の動きが続くと考えている。ひとり親家庭等になったという生活環境の大きな変化を一定程度緩和することで生活の不安を解消している。これにより、自立を視野に入れられる生活の安定維持に貢献している。経済的自立を支援することが子どもたちの健全な育成につながっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	対象者には、あだち広報や区ホームページ、子育てガイドブック等で事業周知を図るとともに、戸籍住民課や区民事務所等と連携した案内配布により申請漏れを防いでいる。また、豆の木メールや郵送などで情報発信強化を図っている。適正受給については、事情聴取・訪問調査を継続して行う。自立支援については、現況届等の面談の際にひとり親家庭支援担当の「豆の木相談室」を案内する。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	ひとり親家庭等が安定した就労や生活のもと、子どもを健全に育むことができるよう、引き続き自立支援の取り組みを推進していただきたい。
------	-------	--

## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

親子支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-⑥	児童育成手当				
事業内容	児童を養育しているひとり親等(家庭)に対して、手当を支給します。					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	2,075,186	2,077,399	0	0	
	事業費	2,033,470	2,077,399			
	人件費	41,716	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	4			
		計	34,564	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	2			
		計	7,152	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
都支出金		0				
その他〔 〕		3,900				
一般財源		2,071,286				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値 H27	実績値					目標値 H31	進捗度
			H28	H29	H30	H31			
児童育成手当受給者数 【低減目標】	児童育成手当の受給者数	9,118人	9,039人				8,800人	5	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5: 80%以上、4: 60~80%未満、3: 40~60%未満、2: 20~40%未満、1: 20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	受給者数はやや下降傾向がみられるが、ここ数年1%程度の範囲で推移しており、今後も同様の動きが続くと考えている。ひとり親家庭等になったという生活環境の大きな変化を一定程度緩和することで生活の不安を解消している。これにより、自立を視野に入れられる生活の安定維持に貢献している。経済的自立を支援することが子どもたちの健全な育成につながっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	対象者には、あだち広報や区ホームページ、子育てガイドブック等で事業周知を図るとともに、戸籍住民課や区民事務所等と連携した案内配布により申請漏れを防いでいる。また、豆の木メールや郵送などで情報発信強化を図っている。適正受給については、事情聴取・訪問調査を継続して行う。自立支援については、現況届等の面談の際にひとり親家庭支援担当の「豆の木相談室」を案内する。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	ひとり親家庭等が安定した就労や生活のもと、子どもを健全に育てることができるよう、引き続き自立支援の取り組みを推進していただきたい。
------	-------	---

## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

親子支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-⑦	ひとり親家庭等医療費助成				
事業内容	児童を養育しているひとり親家庭等に対して、医療費を助成します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	302,867	278,731	0	0	
	事業費	269,792	278,731			
	人件費	33,075	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	3			
		計	25,923	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	2			
		計	7,152	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
都支出金	0					
その他（ ）	532					
一般財源	302,335					

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
ひとり親家庭等医療費助成対象世帯数【低減目標】	ひとり親家庭等医療費助成の対象世帯数	5,587世帯	5,445世帯				5,300世帯	5	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	受給者数はやや下降傾向がみられるが、ここ数年2～3%の範囲で推移しており、今後も同様の動きが続くと考えている。ひとり親家庭等になったという生活環境の大きな変化を一定程度緩和することで生活の不安を解消している。これにより、自立を視野に入れられる生活の安定維持に貢献している。経済的自立を支援することが子どもたちの健全な育成につながっている。
事業の進捗状況 (現状分析)	事業周知、情報発信、適正受給について、児童扶養手当、児童育成手当と同様に実施している。医療券郵送時にチラシを封入するなど引き続きジェネリック医薬品の使用を推奨し、医療助成費縮減に協力していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	ひとり親家庭等が安定した就労や生活のもと、子どもを健全に育むことができるよう、引き続き自立支援の取り組みを推進していただきたい。
------	-------	--

## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

親子支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-⑧	ひとり親家庭応援メールの配信				
事業内容	ひとり親家庭の方向けの手当や就職・転職に関するお知らせのほか、親子で楽しめるイベント情報など、様々なお知らせをメールでお送りします。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	2,072	300	0	0	
	事業費	135	300			
	人件費	1,937	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.1			
		計	864	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0.3			
		計	1,073	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
都支出金		0				
その他〔 〕		0				
一般財源		2,072				

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
ひとり親家庭応援メール配信世帯数	ひとり親家庭応援メールの登録世帯数	100世帯	330世帯				2,500世帯	2	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	児童育成手当の受給者が約9000世帯であることを考えるとまだ需要はあると考える。手当の手続きに関する書類送付時にチラシを同封したり、窓口をはじめ、サロンや他事業で積極的にチラシを渡すなどして、登録者の増加に努めた。登録メリットを瞬時に伝えるPRが必要だと分析している。
事業の進捗状況 (現状分析)	平成29年度、メールの付加価値を強調したチラシを作成し、児童育成手当の現況届のお知らせと同封したところ、登録者が616人に増加した(平成29年6月16日現在)。今後も、企業や他所管とのコラボレーション企画など、いち早くメールで情報を配信し、メール登録の付加価値をつける。また、児童扶養手当の現況届の時期などに、その場でメール登録していただくキャンペーンを実施する。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	登録世帯の増に向けて、様々な取り組みを工夫しており、評価できる。情報発信の手法としてメール配信は効果的であると考えているので、こうした取り組みを継続し、目標値の達成を目指していただきたい。
------	-------	--

## 平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

親子支援課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-3	困難を抱える子育て家庭への支援と虐待の防止				
事業名	2-3-⑨	就労のための資格取得支援				
事業内容	生活の自立に向けて、資格取得など就労に向けた支援を行います。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	41,907	51,544	0	0	
	事業費	35,172	51,544			
	人件費	6,735	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.2			
		計	1,728	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	1.4			
		計	5,006	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	28,289			
	都支出金	0				
	その他〔 〕	0				
	一般財源	13,618				

## ■指標

指標名	指標の定義	実績値					目標値	進捗度
		基準値	H27	H28	H29	H30		
自立支援教育訓練給付金・高等職業訓練促進給付金支給対象者数	自立支援教育訓練給付金・高等職業訓練促進給付金の支給対象者の数	自立支援教育訓練給付金 8人	自立支援教育訓練給付金 8人				自立支援教育訓練給付金 15人	自立支援教育訓練給付金 1 高等職業訓練促進給付金 5
		高等職業訓練促進給付金 26人	高等職業訓練促進給付金 37人				高等職業訓練促進給付金 35人	

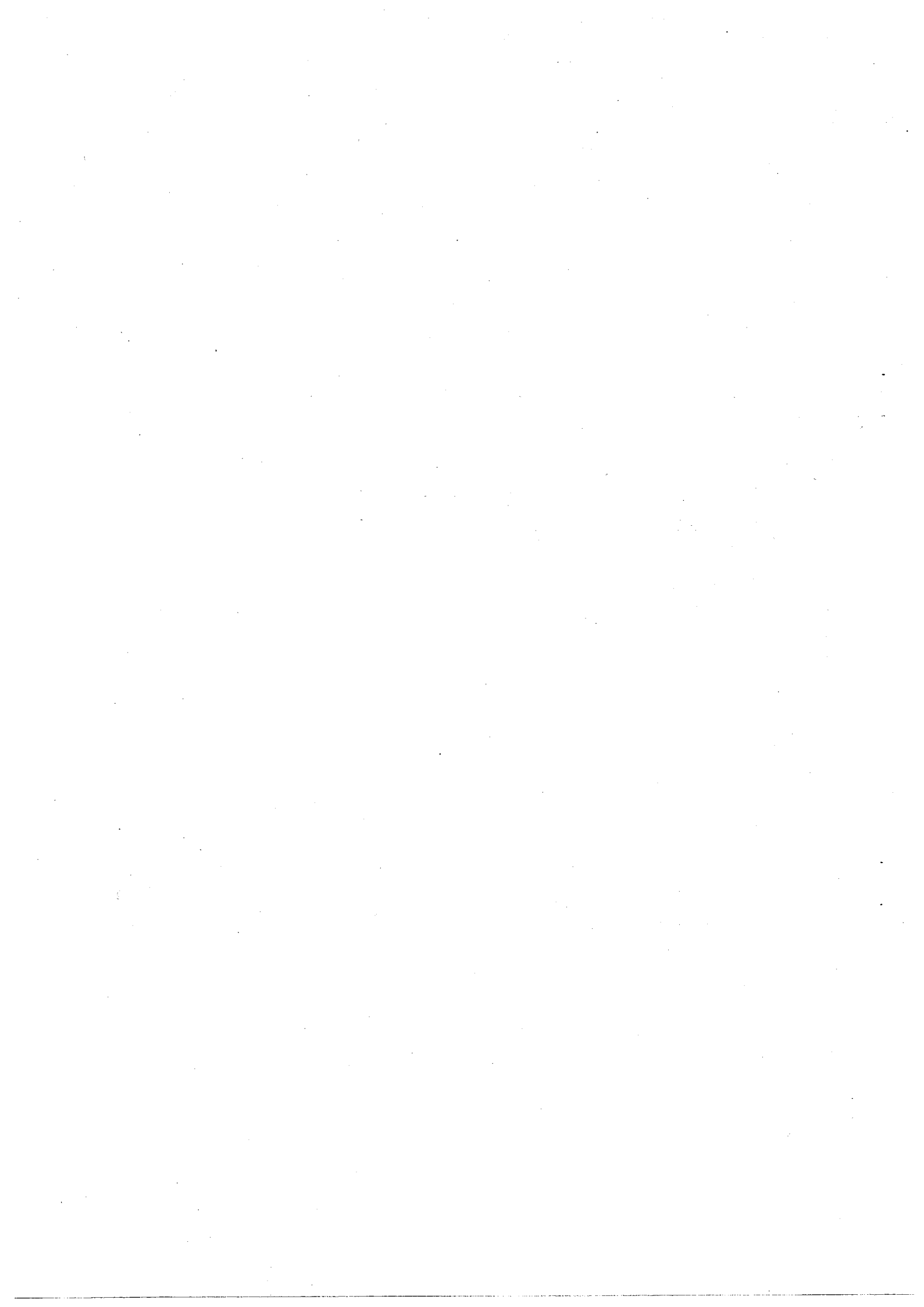
【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	<p>【自立支援教育訓練給付金】28年度中に修了した5名の就職状況は、非正規3名、求職中2名だった。講座の受講が就職や正規雇用につながるとは言い切れない。</p> <p>【高等職業訓練促進給付金】受給者は年々増加傾向にある。平成28年度の修了者9名中8名(残る1名は進学)は全員が正規雇用であり、国家資格を取得することが正規雇用の就職につながる可能性は高いといえる。</p>
事業の進捗状況 (現状分析)	<p>就労支援に関する給付金を活用するメリットや就職状況等を周知するため、29年度は制度の内容や活用モデル等をわかりやすくまとめた冊子を作成・配布する。また、自立支援教育訓練給付金活用者の講座修了後の就職率向上に向け、受講前の面談時に、具体的なキャリアプランをしっかりと確認する。修了者に対しては、ハローワークを紹介するなど、アフターフォローを強化する。</p>

以下、子ども政策課記入欄

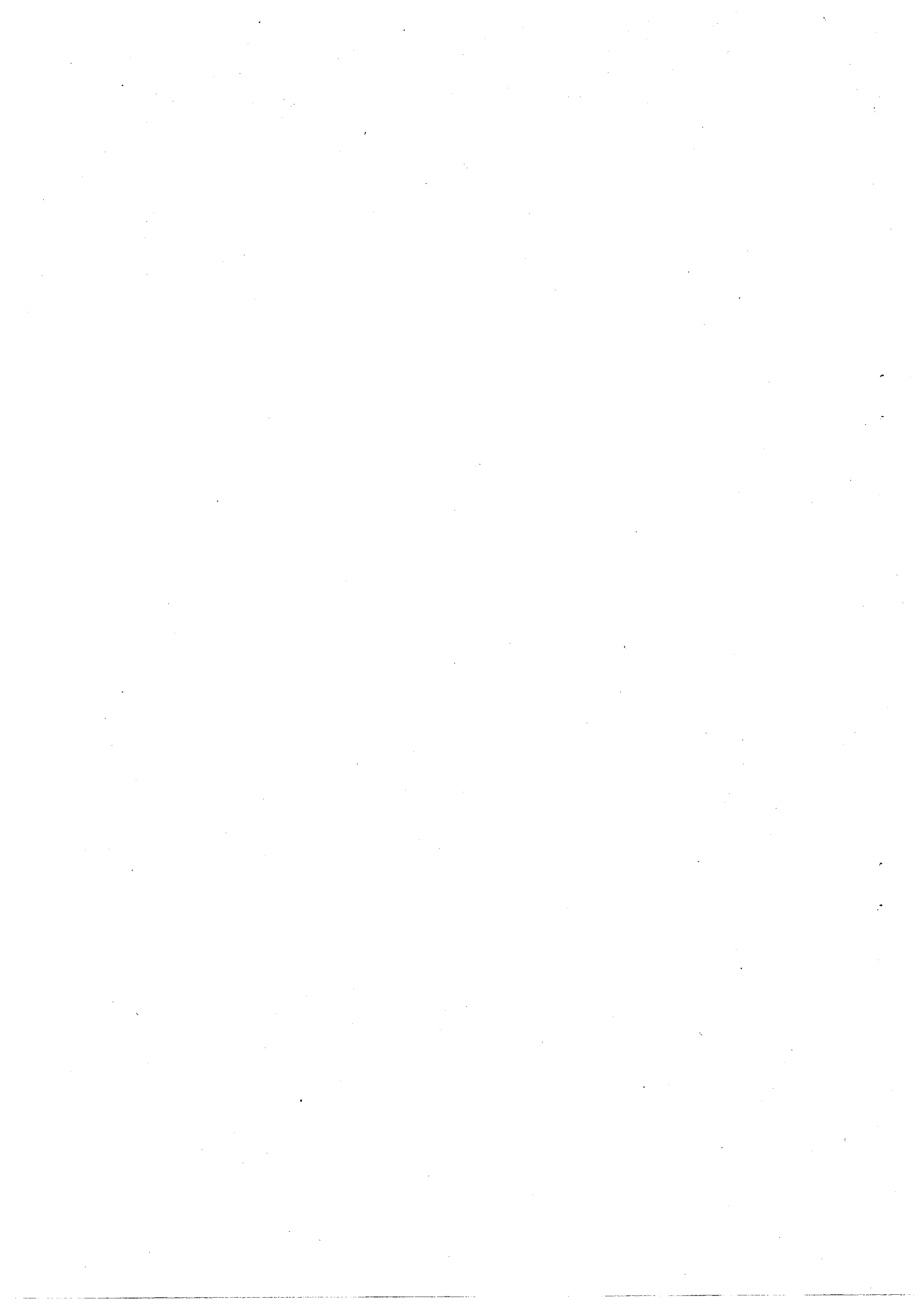
総合評価	★★★★☆	より安定した就業と収入を確保するため、必要な方への的確な周知に努めていた きたい。
------	-------	--





## 施策2-4

安心して子育てのできる生活環境  
の整備



## 平成29年度事業分析表(平成28年度事業実施分)

作成担当課 ユニバーサルデザイン担当課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-4	安心して子育てのできる生活環境の整備				
事業名	2-4-①	ユニバーサルデザイン(バリアフリー)の推進				
事業内容	子ども、子育て中の方等の移動や施設の利用における利便性、安全性の向上を図るため、ユニバーサルデザイン推進計画及びバリアフリー推進計画に基づき、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進します。					
事業費等	投入資源(千円)	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	25,649	7,464	0	0	
	事業費	6,639	7,464			
	人件費	19,010	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	2.2			
		計	19,010	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	1,980			
都支出金	750					
その他〔 〕	0					
一般財源	22,919					

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
ユニバーサルデザイン推進計画の個別施策の評価点の平均値	個別施策のうち、次の施策の評価点の平均値 1-①ユニバーサルデザインに配慮した歩道を整備する 1-②ユニバーサルデザインに配慮した公園を整備する 1-③ユニバーサルデザインに配慮した公共施設を整備する 1-④ユニバーサルデザインに配慮した民間施設を整備する 1-⑧放置自転車等をなくす対策を強化する	3.6点	3.8点				3.8点	5	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5:80%以上、4:60~80%未満、3:40~60%未満、2:20~40%未満、1:20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	各施設管理者がユニバーサルデザイン推進計画に基づき施設を整備・維持管理を行うことにより、安心して子育てできる生活環境を整備できる。
事業の進捗状況 (現状分析)	ユニバーサルデザイン推進会議において、従前と比較してユニバーサルデザイン化が進んでいるとの評価をいただいている。 今後も、各施策のスパイラルアップを図っていくように、各施設管理者と協議を行い、ユニバーサルデザインのまちづくりを推進していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★★	対象施策の評価点もあがっており、また、推進会議でもユニバーサルデザイン化が進んでいるとの評価をいただいている。ユニバーサルデザイン推進計画が平成30年度まで延伸されたなかで、引き続き、子育て世帯にとっても生活しやすいまちづくりを推進していただきたい。
------	-------	---

平成29年度事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課 子ども政策課 管理係

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-4	安心して子育てのできる生活環境の整備				
事業名	2-4-②	赤ちゃん休憩室				
事業内容	オムツ替えや授乳スペースの提供に協力していただける民間施設を増やし、気軽に外出しやすい環境をつくりまします。なお、公私立認可保育園等の公共施設では、34施設（H28年4月1日現在）に赤ちゃん休憩室を設置しています。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	864	126	0	0	
	事業費	0	126			
	人件費	864	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	0.1			
	非常勤	平均給与	3,576	0	0	0
		人数	0	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金	0			
	都支出金	0				
その他〔 〕	0					
一般財源	864					

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
民間施設における設置箇所数	民間における赤ちゃん休憩室への協力施設数	15箇所	18箇所				30箇所	5	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
 5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	実績値は年々増加しており、民間施設においても乳幼児連れの保護者が外出しやすい（お店に来やすい）環境づくりに取り組み始めていることがうかがえる。保護者が乳幼児と一緒に、気軽に外出しやすい環境づくりに向け有効な施策であるため、引き続き協力施設数を拡大していく。
事業の進捗状況 (現状分析)	協力施設数の拡大に向け、あだち広報や区ホームページへ協力店募集記事を掲載している。この結果、今年度新たに1施設を認定し、さらにいくつかの施設から新規協力したいとの相談も入っており、今後も登録施設数の増加が見込まれる。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	民間施設においても協力施設が増えていることは、のぞましい。引き続き、協力施設数の拡大に向けて取り組んでいただきたい。
------	-------	--

## 平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課

公園管理課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-4	安心して子育てのできる生活環境の整備				
事業名	2-4-③	公園等遊具の安全対策				
事業内容	専門技術者による定期点検（年1回）、管理部署による日常点検（月1回）を実施し、劣化及び摩耗が進行している遊具については補修・撤去を行い、安全な公園を提供します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	11,802,256	14,864,000	0	0	
	事業費	11,664,000	14,864,000			
	人件費	138,256	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	16			
		計	138,256	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	0			
		計	0	0	0	0
財源内訳	国庫支出金	0				
	都支支出金	0				
	その他（ ）	0				
一般財源	11,802,256					

## ■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
定期点検時における、直ちにまたは3か月を目処に補修または撤去を要する遊具の数（全遊具に占める割合）【低減目標】	(算出式) $\frac{A}{B}$ A：定期点検により、補修または撤去を要すると判定された遊具の数 B：区内の全遊具数	28基 (1.2%)	29基 (1.3%)				20基 (0.9%)	1	

【進捗度】H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

## ■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	多くの公園・児童遊園で遊具の老朽化が進み、劣化および摩耗が進行しており、将来を見据えた計画的な補修・改修が必要な状況にある。利用者への継続的な安全対策は必要不可欠であり、遊具の老朽化や不具合による事故防止のためにも遊具点検は重要と考える。
事業の進捗状況 (現状分析)	専門業者による定期点検の結果を踏まえ、計画的に遊具の補修・改修を実施している。また、各種点検により遊具の部材ごとの破損や腐食・塗装の剥がれや錆などに対する早期補修も実施している。引き続き、定期点検や日常点検を実施して、利用者が安心・安全に利用できるよう努めていく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	遊具の老朽化が進むなかで、日常点検や定期点検により、遊具の安全性が確保されているものと考え。今後も、利用者が安心・安全に遊具を利用できるよう、計画的な補修・改修をしていただくことを期待する。
------	-------	---

平成29年度 事業分析表（平成28年度事業実施分）

作成担当課 パークイノベーション担当課

施策群	2	妊娠から出産・子育てまで切れ目なく支える				
施策	2-4	安心して子育てのできる生活環境の整備				
事業名	2-4-④	パークイノベーションの取り組みの推進				
事業内容	魅力ある地域の公園を整備していくため、パークイノベーションの取り組みを推進します。					
事業費等	投入資源（千円）	H28実績	H29	H30	H31	
	総事業費	574,211	500,750	0	0	
	事業費	484,412	500,750			
	人件費	89,799	0	0	0	
	常勤	平均給与	8,641			
		人数	9.49			
		計	82,003	0	0	0
	非常勤	平均給与	3,576			
		人数	2.18			
		計	7,796	0	0	0
	財源内訳	国庫支出金				
都支出金						
その他〔 〕						
一般財源		574,211				

■指標

指標名	指標の定義	基準値	実績値					目標値	進捗度
			H27	H28	H29	H30	H31		
よく行く、または行きたい公園がある区民の割合	世論調査で「よく行く、または行きたい公園がある」と答えた区民（20～40歳代）の割合（そう思う、どちらかといえばそう思うの合計）  (算出式) $\frac{A}{B}$ A：世論調査で「よく行く、または行きたい公園がある」と答えた区民(20～40歳代)の数 B：世論調査に回答した区民(20～40歳代)の数	43.3%	47.4				50%	5	

【進捗度】 H27実績を基準値としたH31の目標値に対する各年度の進捗度(便宜的に各年度の目標値を平均して算出。その算出値に対する進捗度)  
5：80%以上、4：60～80%未満、3：40～60%未満、2：20～40%未満、1：20%未満

■事業の分析

活動実績に対する分析 (施策に対する有効性の評価)	9公園の改修、2公園の新設・拡張を実施したほか、トイレの洋式化や公園灯のLED化を進めた。ユニバーサルデザインや遊具の安全基準、防犯設計ガイドラインに基づく改修等を行ない、子育て世代が安心して公園づくりを進めた。
事業の進捗状況 (現状分析)	パークイノベーションの計画に基づく公園改修は、モデル地域内で平成26年度3公園、27年度2公園、28年度9公園となり、軌道に乗りつつある。今後は区全域に取組みを拡大していく。またハード面だけでなく、区民団体と連携したボール遊び教室の開催や、特色ある遊具の紹介マップで既存公園のPRを行うなどソフト面の取組みも拡充していく。

以下、子ども政策課記入欄

総合評価	★★★★☆	パークイノベーションの計画に基づく公園改修の更なる拡大を期待する。利用者側との意見交換にも努め、ハード・ソフトの両面から魅力ある公園作りに取り組んでいただきたい。
------	-------	---